



Jichi 地域連携ニュース



- ・ 病院長就任のご挨拶
- ・ 診療科からのメッセージ 消化器・肝臓内科
- ・ 着任のご挨拶 看護部長
- ・ 附属病院の新体制
- ・ 西棟別館OPEN (中央放射線部)
- ・ NST講演会のお知らせ
- ・ 診療科からのメッセージ 呼吸器外科
- ・ 先進医療のご紹介「腹腔鏡下胃縮小術」
- ・ 自治医科大学公開講座のお知らせ

病院長就任のご挨拶

自治医科大学附属病院長 安田 是和 (やすだ よしかず)



4月から病院長に就任しました安田是和です。よく患者さんから名前はなんと読むのですか?と聞かれます。「やすだよしかず」です。どうぞ宜しくお願いします。

まず簡単に自分のこれまでの自治医大の生活を振り返ることで、自己紹介をしたいと思います。私は昭和51年に自治医科大学附属病院消化器・一般外科に入職(入局)しました。自治医大消化器・一般外科初代教授の森岡恭彦先生のもとで外科を学びたいとの思いから、栃木にくることになりました。最初の面接の時に「レジデントは5年で終了なので、その後はどうなるかわからない。」といわれましたが、私の父は転勤が多く引っ越しは慣れていたので、5年経ったら考えようと楽天的に考えていました。35年もの長い間、栃木県にお世話になるうとは当時想像もできませんでした。当時の自治医大の外科の研修制度は、大学卒業後にそのまま希望の科に入る、い

わゆるストレート研修でした。しかし、内科研修制度は当時はまだめずらしかつたローテーション研修制度をとっていただけで、全国各地から80人ほどの研修医が応募しました。多くの自治医大同門会にも当時の仲間や先輩がおられ、いまでも大変お世話になっています。

当時の外科は、現在のように若い医師、特にレジデントが執刀することは少なく、指導医の手術につくことと術前術後管理に追われ、鍛えられました。特に当時は人工呼吸器が院内に数台あるだけです。重症患者の呼吸管理は、若い医師が交代で呼吸バックを押して管理する時代で、眠っていても手は呼吸バックを揉んでいるという、現在では考えられない状態の研修でした。しばらくして人工呼吸器が導入された時の感激は今でも忘れられません。当時の指導医は「人工呼吸器は信用できないから、患者の隣に寝て見張っているように」と言われ、簡易ベットで患者さんの横で夜を過ごしたことも多々ありました。当時は自治医大病院でも夜間の緊急検査はできませんでしたから、夕方5時以後は医局にある検査機器で血糖、電解質、血液ガスなどを測定しました。現在の自治医大病院の体制からは想像もできない状態であったわけですが、それでも院内では多くの催しがあり、野球やバレーボールの試合があったり、夏は盆踊り、春の花見など今よりゆとりと余裕がありました。職員数も多くなかったのでお互い良く顔を知っていました。本年自治医科大学創立40周年を迎えたことはご存じの通りです。職員数は約2500人ですので、大企業なみの組織へと発展しました。

このような中で、自治医大病院は今後どのような方向に発展していくべきか、大きな課題であると思います。まず職員が一体感をもって仕事ができる環境作りを目指したいと思います。病院には多くの部署ができていますが、職員が共通の認識をもつ事が大切であり、また共有する問題に対して共に解決していく姿勢が重要です。そのためには、現在の病院の状況を、わかり易い形で提示する必要があり、現在種々の指標や資料を準備しています。例えば、当院での手術数は平成3年には病床数984床に対して4200件程度でしたが、平成23年度は病床数1130床に対して9160件であり、中央手術部を中心とした負担が増えていることがわかります。他の部門でもそれぞれの変化があると思いますが、これらを分析しつつ今後の自治医大病院の方向を広く議論していきたいと考えています。

昨年は西棟別館が完成し、現在外来のリニューアル工事を行っていますが、今後の施設建築は、10-20年後のグランドデザインを考えながら進めて行く必要があります。

自治医科大学附属病院の理念は(1)患者中心の医療、(2)安全で質の高い医療の提供です。医療安全の概念はここ10年の間に急速に高まり、当院では平成16年に医療安全対策部が創設されました。医療安全の推進を図ることはもちろんであるが、職員が健康であることも良い医療を提供するためには重要であり、勤務形態を見直す必要があります。数年前友人の外国の外科医が当院を訪問した時に、「君たちは、まだカミカゼを信じているのか」と皮肉をいわれました。「精神」や「意欲」は医療人にとって必須のものですが、適切な勤務を再構築する時期が求められています。この10年間をみても、DPCの導入により医療に効率化の概念が導入され、また救急部は救命救急センターと発展し、またとちぎ子ども医療センターの開設、がん診療拠点病院の認定、新医師臨床研修制度導入など、医療政策などの変化により本院は多くの影響を受けてきましたが、職員の努力によりこれらに対して着実に対応してきました。しかし、これらの変化に対応できる勤務態勢、いわばスポーツでいえば守備体系をもう一度見直す時期にきています。一つは外科系の診療体制の整備であり、当院の規模としては少ないと指摘されている集中治療部の病床数の増加、中央手術部の充実、またいくつかの部門の強化拡張が必要です。また内科系では、レジデントや学生教育の充実と多様化する高齢者の医療を提供するために、総合診療部の議論を引き続き行っていきます。これらの問題に対する議論を全病院的に行うために、種々の指標を会議や広報を通じて広く提示し、多角的に議論を行いたいと考えています。

自治医大病院は、優秀なスタッフを多く擁し、大きなエネルギーと可能性のある大学附属病院です。地域の医療機関とも密接に連携することを重視し、充実した教育と高度な医療を通じて社会に貢献できる自治医科大学附属病院を目指す所存です。

しかし、これらは当院のみの努力でなしえることではありません。大学附属病院である特定機能病院は、急性期医療にさらに特に力を入れるように求められており、これらの機能を発揮するには、地域医療連携が必須です。具体的にはすでに脳卒中や心筋梗塞の地域医療連携パス、がん診療地域医療連携パスなどの形で、急性期病院と急性期治療の次の診療を受け持つべく地域の医療機関との密接な協調がこれまで以上に重要となります。救急医療に関しても、当院の3次救急の能力を生かすような診療体系にする努力が必要です。地域の先生方によって運営されている各地区の休日夜間急患センターなどにより一次救急患者は減少の傾向にありますが、今後さらに自治医大と周辺医療機関との協力によって救急患者の適切な診療体系を見直していかなければなりません。

従来からの問題、今後の課題と検討するべきことは山積ですが、地域医療機関の先生方のご協力を得て、あらたな地域医療連携を進めていきたいと考えております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

《附属病院の新体制》

役職	氏名	担当	所属部門
病院長	安田 是和		消化器外科学部門教授
副病院長	鈴木 光明	総務、病院機能改革、医療安全 外科系・中央施設部門担当	産科婦人科学部門教授 (兼)総合周産期母子医療センター長
	杉山 幸比古	リニューアル、保険診療、内科系担当	呼吸器内科学部門教授(兼)保健センター長
	草野 英二	地域連携、勤務医負担軽減等	腎臓内科学部門教授(兼)地域医療連携部部長
	朝野 春美	看護全般	看護部長
病院長補佐	佐田 尚宏		消化器外科学部門教授兼鏡視下手術部部長
	小西 宏明		心臓血管外科学部門教授(兼)中央手術部部長 (兼)医療情報部部長
	長谷川 剛		呼吸器外科学部門教授(兼)医療安全対策部部長
	相原 敏則		小児画像診断部部長(兼)子ども医療センター長

《新任者紹介》

氏名	所属・役職	所属部門
永井 良三	学長(兼)医学部長	(新規)
市村 恵一	副学長	(新任) 耳鼻咽喉科学部門教授
河野 由美	新生児集中治療部部長	(新任) 小児科学部門准教授

😊😊😊 診療部門からのメッセージ



呼吸器外科

外科学講座呼吸器外科学部門教授 遠藤俊輔

当科では、気管支鏡と胸腔鏡を用いた検査に引き続いて、外科治療と気管支インターベンション治療を行っております。癌死亡原因の一位となった肺癌に対し、いち早く診断治療を行う心がけております。

気管支鏡検査においては鎮静剤を用いて苦痛なく肺癌を診断しています。また気道狭窄症例に対しては硬性気管支鏡を用いて気管支腔内のステント治療を行っています(図参照)。

外科治療においては、肺癌の進行度と患者さんの全身状態に応じたオーダーメイド治療を行っております。小型で早期の肺癌症例や高齢者などの全身状態の不良な症例には胸腔鏡手術を、完全切除が難しい進行肺癌症例では放射線化学療法を併用した手術を行っています。術後不幸にして再発してしまった症例でも再手術や抗癌剤を用いた治療を行っています。

日常診療において胸部の異常病変に気づかれましたら、遠慮なくお問い合わせください。

呼吸器外科ホームページ <http://www.jichi.ac.jp/geka/index.htm>
診療科連絡先 tcv3514@jichi.ac.jp

(気管分岐部にY型ステント留置している風景と挿入後のX線写真)



消化器・肝臓内科

肝疾患相談室連絡先

内科学講座消化器内科学部門准教授 磯田 憲夫

0285-58-7459 (地域医療連携部看護支援室)

栃木県には現在、肝疾患診療連携拠点病院が自治医科大学附属病院と獨協医科大学病院におかれています。これは、栃木県からの委託を受けて、かかりつけ医と専門医療機関との協議の場となる協議会を設置したり、栃木県内における肝疾患診療に関わる診療連携ネットワークの構築を行うことを目的としています。また、それぞれの病院には肝疾患相談室をおき、患者さんからの種々の要望に対する相談窓口となっております。たとえば、肝炎検査結果に関する相談、肝炎ウイルス治療に関する相談、専門医等に関する相談、肝炎治療公費助成制度に関する相談、日常生活（療養生活）に関する相談などがあります。肝疾患相談室では専任の看護師をおき、電話による相談の他、相談内容によっては専門医による相談などを行っております。

また、肝疾患診療連携拠点病院では肝疾患専門医療従事者に対して年1～2回程度に研修会を開催したり、一般県民を対象とした市民公開講座を年1回開催し、肝疾患の啓蒙および新しい治療の普及に勤めています。

現在、B型慢性肝疾患、およびC型慢性肝疾患に対して国および県の助成を受けて公費助成制度が施行されています。これらに対しては今後、肝臓専門医と一般かかりつけ医との間で肝疾患医療連携クリティカルパスを普及させ、地域連携を計っていきたくと考えております。今後とも、一層のご協力をよろしくお願いいたします。



西棟別館が OPENしました

病院南西の角に建設中であった西棟別館が5月にOpenしました。放射線部では1階フロアにMRIを増設（3テスラ2台）し5台体制になります。MRI検査の混雑緩和、高度検査の対応が可能となります。2階は、外来透析センターを予定（秋ごろ）しており、地域医療への更なる貢献を果たして行きたいと考えています。

放射線部ではその他、CT（64列1台、128列2台、128Dual1台）、血管撮影装置2台、核医学装置（SPECT-CT2台、PET-CT）等さまざまな装置が稼動しており、24時間、高度放射線検査を可能としています。情報システムも、7年前から完全フィルムレスとなっており、昨年度更新を行い、診療側への高速な画像データ、診断情報の提供に努めております。

放射線治療においてもライナック（3台）によるコンベンション治療はもとより、IMRT・頭部定位・体幹部定位等、高精度放射線治療も実施しています。

(中央放射線部)



着任挨拶 看護部長 朝野 春美

2011年5月から看護部長を務めております。この4月には副病院長も拝命いたしました。よろしくお願いいたします。

看護部では理念を大学・附属病院の理念に基づき「患者・家族の皆様が、安心と満足の得られる看護を提供します。」としております。現在、1,450人の職員がおりますが、心配や不安を抱えた患者さん・ご家族に一致協力して支援をしていきたいと活動しております。入院時から退院に向けた支援に心がけ、急性期を脱した患者の適切な療養場所の選定に関与しなくてはならないと思っております。在宅なのか医療機関・施設なのか、また、終末期のことも考えなくてはなりません。地域医療連携部と円滑に連絡を取り、地域の医療機関・施設との連携を深めたいと考えております。

今後、多くの職種の皆様方のご理解とご協力をいただきながら、取り組んでいきたいと思っております。ご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

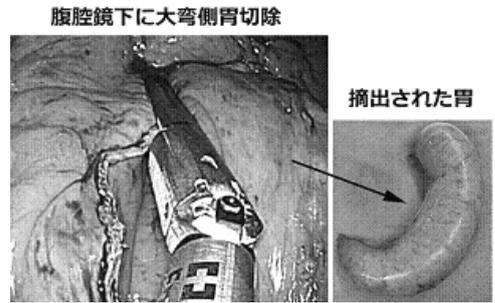


消化器外科 准教授 細谷 好則

鏡視下手術部 教授
消化器・一般外科 教授

佐田 尚宏
安田 是和

肥満手術は、食事量を制限する手術としてのバンディング、スリーブ状胃切除と、食事量制限プラス吸収障害としての胃バイパス、胆膵バイパスに大別されます。病的肥満症では手術群と非手術群で比較すると、手術群で有意に死亡率が低いという比較試験が複数、報告されたこともあり、2000年ころから急速に普及しはじめて、08年には世界中で34万件行われるようになりました。90%以上が腹腔鏡で行われています。日本は肥満手術の認知度も低く、開腹の胃縮小術が保険で認められているのみであり、いずれの腹腔鏡下肥満手術も保険で認められていません。スリーブ状胃切除は胃バイパスに比べ手技が簡略であり、減量効果はバイパスに匹敵するとされています。また、胃のスクリーニングが容易であるので、日本人向きともいえます。



従って、当院では腹腔鏡下のSleeve状胃切除を先進医療として導入しました。適応は日本肥満症治療学会のステートメントに準じて、Body mass index (BMI) $\geq 35\text{kg}/\text{m}^2$ 、あるいはBMI $\geq 32\text{kg}/\text{m}^2$ で2つ以上の肥満関連症を有する症例で、かつ18-65歳の1次性肥満としています。欧米の手術関連死亡率は0.4-1%と報告されています。手術適応判断や術期管理、術後の長期フォローアップは各専門科によるチームアプローチ、サポートグループの協力が極めて重要です。

適応については、患者さまの病状やご家族の栄養管理に対する意識等も確認の上、総合的に各専門分野と協議のうえ決定します。病的肥満治療の選択肢としてお加えください。

なお、この手術は先進医療として認定されているため、手術料が選定療養費として別途患者負担となりますがその他入院料等は保険診療が適用となります。

問合せ先 外科外来受付 ☎0285-44-2111 (代) 診療曜日 水曜日

♪♪♪ 附属病院からのお知らせ ♪♪♪

✿ NST研修

参加無料(申込み不要)

会場 自治医科大学地域医療情報研修センター 中講堂 (本館西側の茶色の建物)

対象 NSTのための専門的な知識・技術を有する看護師・薬剤師及び管理栄養士等の養成を目的とした研修です。

演題	日時(H24年)	講師	問合せ先
栄養アセスメントと栄養プランについて(病棟NST報告)	6月5日(火) 18:00-19:00	(自治) 川畑 奈緒管理栄養士	自治医科大学附属病院 臨床栄養部 NST支援室 ☎ 0285-58-7574 メール nst@jichi.ac.jp
		病棟看護師	
経腸栄養について 胃瘻について	7月3日(火) 18:00-19:00	(自治) 川畑 奈緒管理栄養士	
		古内 三基子看護師長	
静脈栄養について	8月7日(火) 18:00-19:00	(自治) 倉科 憲太郎医師 村上 径世薬剤師	

✿ 自治医科大学公開講座

参加無料(申込み要)

申込先 学事課総務係 ☎0285-58-7044

会場 自治医科大学地域医療情報研修センター 大講堂 (本館西側の茶色の建物)

対象 一般の方及び医療関係者の方

時間 ①13時30分～14時45分(休憩)②15時～16時15分 (7/7のみ16時30分終了)

テーマ 「環境と健康」

日程	演題	講師
7/7 (土)	社会構造の変化と医療	①日本の人口構成の変遷から観て 常陸大宮済生会病院長 伊東 紘一 ②異文化と医療 (自治) 社会学教授 渥美 一弥
	7/14 (土)	IT化と脳・身体の変化
7/21 (土)		生活習慣と健康
	7/28 (土)	環境汚染
8/4 (土)		温暖化